

弘前城かわら版

Vol. 1 (令和4年3月30日)

弘前城跡では、令和3年度より弘前城三の丸追手門と二の丸南門の保存修理工事が始まっており、今後も史跡内で重要文化財建造物や橋などの修理が計画されています。弘前市では、弘前城跡で進む文化財の修理情報を『かわら版』として随時発信しますので、どうぞお楽しみに。

二の丸南門、63年ぶりに保存修理！

1. 地下遺構の調査

二の丸南門は耐震診断の結果、大地震で浮き上がる恐れがあると判明したため、土台下にカウンターウエイト（おもり）を埋設する耐震補強を実施します。この門は弘前城築城の慶長16年（1611）頃の建物と考えられ、地下に江戸時代の遺構が残っている可能性もあることから、事前に発掘調査を実施しました。



弘前城二の丸南門



江戸時代の盛土（黒色土）

調査の結果、二の丸南門の土間コンクリート叩き〔昭和33年(1958)設置〕の下には人頭大の円礫が一面に敷かれ、その円礫を取り外すと江戸時代の盛土（黒色土）が出てきました。円礫は昭和の敷設と考えられるとともに、江戸時代の黒色土までの深さは約30cmで、昭和の修理の際には江戸時代の地層をここまで掘り込んで工事をしたものと思われます。

2. 銅瓦葺き屋根の修理



妻面に残る江戸時代後期の仕様（南面）



江戸時代後期の銅板（南面）

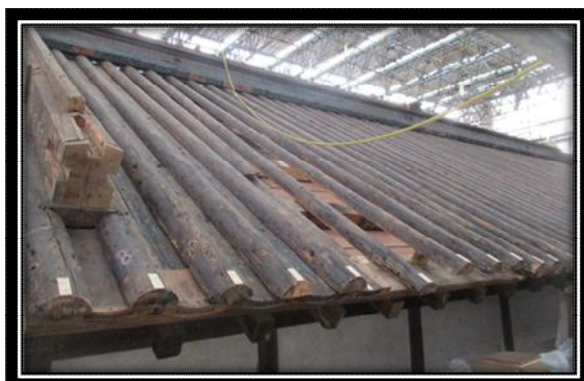
令和3年11月上旬より工事用の仮設足場を設置し、今回の修理対象である上層屋根の銅板をすべてはがし、下地木部の状況を確認しました。二の丸南門では、昭和33年（1958）に上層屋根を部分的に、下層屋根を全面的に葺き替えしています。

屋根の状態を観察したところ、二の丸南門では2階窓の庇（ひさし）に残る屋根の仕様が最古である可能性が高いと判明しており、弘前城内の建物の屋根が「銅瓦葺き」に改変された江戸時代中期以降のものと推測されます。また、上層屋根の両妻面（南面・北面）には、江戸時代後期・文化年間（約200年前）の仕様が残っていました。約200年前の様相を残す屋根は、全国的に見ても極めて貴重であることから、南の妻面において古い銅板をできる限り残すこととしました。

銅板をはがしたところ、屋根下地木部の状態は概ね良好でしたが、部分的に昭和33年修理時のルーフィング（雨漏り防止シート）が確認されました。昭和に修理できなかった部分と思われることから、今回新しい木材も用いて修理します。



庇の屋根は上層屋根妻面よりも古い



上層屋根西面の下地木部

【発行】弘前市都市整備部公園緑地課弘前城整備活用推進室

〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地

電話 0172-33-8739 FAX 0172-33-8799 E-mail: kouen@city.hirosaki.lg.jp